

2014年6月5日

札幌駅総合開発株式会社

JRタワー「アートボックス」

今年度第1回作品「笑う鏡 smile in the mirror」展示のお知らせ



作家 磯崎 道佳（いそざき みちよし）

タイトル 「笑う鏡 smile in the mirror」

期間 2014年6月1日(日)

～2014年8月31日(日)

場所 JRタワー1階 東コンコース

札幌駅総合開発株式会社は、JRタワー開業以来「JRタワーアートプロジェクト」を展開しています。「アートボックス」は、その一環として、北海道のアーティストたちに新たな発表の場を提供することを目的に、2008年からJRタワー1階東コンコースに設置した展示スペースです。公募作品から選定された優秀作品を、順次展示して参ります。

今年度、第1回目の作品展示は、磯崎道佳「笑う鏡 smile in the mirror」です。

磯崎は、作品を制作する参加型のプロジェクトを精力的に展開し、その特徴は子どもの遊びや発想にヒントを得たところにあり、子どもを対象としたパフォーマンスやワークショップも国内外で数多く実施しており、それぞれの持つ技術を活かし、作品を発表しています。

今回の作品は、自信が求めている「笑顔」というテーマに迫ります。

笑顔が持つ役割について、作品を通じて考えていただきたいという思いから作品を作り続けています。

この機会にぜひご覧ください。

作家コメント

朝の鏡には、誰に向けるでもない個人的な微笑みが刻印されています。

この場所を通るほとんどの人が、毎朝、鏡に映る自分の顔と儀式のように対面しています。女性は化粧をし、男性はヒゲを剃る。鏡に映るその姿は他者と共有することはありません。家族や愛する人にさえ見せることがない無防備な自分だけの姿/顔の確認作業です。

震災と原発事故以降、「笑顔」の社会における機能について考えています。

特に子どもたちにとって笑うことは大切です。でも、彼らの笑顔が一番必要としているのは誰なのでしょう。笑うことが難しくなったと感じる今、あらためて笑顔の役割、機能について考えています。

略 歴

1968 年水戸市生まれ。様々な表現形態を用い、誰もが持つ好奇心を引き出すことで、新しい視点を発見する場を制作している。主なプロジェクトに、面識のない者同士による手紙の交換を目的とした「パラシュートとマキオ」。参加者と巨大バルーンを制作する「ドーム/DOME プロジェクト」。雑巾で等身大の動物を制作する「ぞうきんぞうプロジェクト」、「モップの生活/Life of Mop」、「笑う机 - smile on the desk」など。現在北海道ニセコ町在住。

■主な展覧会

- 2014 年 北の脈 -North Line-/500m 美術館（札幌）
- 2013 年 大地を包む-繊維からの再考/越後妻有里山現代美術館 [キナーレ]（新潟）
- 2012 年 笑う机 - smile on the desk/ARCUS project（茨城県守谷市）
- 2011 年 新・港村 / 新港ピア（BankART1929）（横浜）
アートから出て、アートに出よ 美術館が消える 9 日間/北海道立近代美術館
- 2009 年 むこうのさくら（2008 年から継続）/佐倉市立美術館、北海道士幌町
- 2007 年 笑い展：現代アートにみる「おかしみ」の事情/森美術館（東京）
- 2006 年 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2006（2003、2000）（新潟）
- 2004 年 第 2 回府中ビエンナーレ-来るべき世界に/府中市美術館（東京）
- 2002 年 Listening to New Voices/P. S. 1Contemporary Art Center（N Y）

担当：文化事業部 佐藤・吉田

電話：011-209-5075